

発行日 平成 23 年 3 月 3 日

「CSR & コンプライアンス研究フォーラム」^{ニュース}52号

発行：「CSR & コンプライアンス研究フォーラム」 広報委員会

〒 105 - 0003 東京都港区西新橋 1 - 14 - 7 山形ビル3階

TEL 03 (3504) 9800 FAX 03(5157) 3180

E-Mail csm-hq@eco-texj.co.jp

早春の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

研究フォーラム・ニュース 52 号を配信させていただきます。

1月23日木曜・第46回フォーラムセミナーが開催されました



2011年の年明け初めてのセミナー開催にあたり、近藤事務局からご挨拶の続き、ご参加いただきました皆様に各社・各人の近況スピーチをお願いいたしました。

講演 「日用品の安全性について」



今回は、財団法人・日本文化用品安全試験所・大阪事業所・理事 船越良則氏を大阪からお招きし、同法人の事業概要と日用品の物理的、化学的安全性試験、欧州規格（EN1811）に基づくニッケルの溶出検査等についてご講演をいただきました。

同法人は昭和31年に輸出品取締法に基づく検査機関のひとつとして設立された(財)日本金属玩具検査協会を母体とし、昭和50年に現在の日本文化用品安全試験所として設立されたとのこと。

平成7年には、当時通産省から製品事故原因究明機関として指定を受け、その後、食品衛生法登録検査機関、JIS登録認証機関、ISO/IEC17025試験所認定、米国消費者製品安全委員会の第三者試験機関登録等を取得し、昨年には消費生活用製品安全法の特別特定製品(ガスライター)の登録検査機関になるなど、日本における生活文化用品についての幅広い品質、安全、環境試験を行っていることをご説明いただきました。



今回、当フォーラムの事務局からご講演をお願いした、EU・RoHS指令など重金属の溶出、含有試験、特に欧州規格(EN1811)に基づくニッケル溶出試験については詳しくご説明をいただきました。

ニッケルはステンレスや合金材料、メッキ材料として、耐食性、耐摩耗性の向上、金属光沢の付与など様々な用途で用いられる一方、ニッケル化合物はIARC(国際がん研究機関)の発がん性リスク一覧ではグループ1(ヒトに対する発がん性が認められる)に分類され、金属アレルギーを起こしやすい物質として知られている。日本では規制はないものの、欧州では皮膚と直接かつ長時間接触することが想定される製品について、使用および流通に対して規制が設けられている。ポイントとして、ニッケル使用制限はステンレス鋼など合金材料を制限することになり、多くの工業品が成立しなくなってしまう。そのため、あくまで皮膚への直接・長時間接触を前提とした溶出規制をしていることにあるとお話いただき、実際の試験検査事例にも触れていただきました。

また玩具の安全確保のための試験・検査と玩具安全マーク制度に関わる試験検査、ガラス製品の試験検査についても詳しく説明をいただき、日常生活品安全確保の試験・検査の実際を丁寧に説明をいただきました。

第9回理事会・総会が開催されました



2月24日木曜・16時より、研究会事務所・会議室で岡本会長、清水特別顧問らの、多くの皆様のご出席を得て第9回理事会・総会が開催されました。

岡本会長に議長に就任いただき、事務局から22年度事業報告と会計報告、23年度事業計画と予算計画ら議案が、高岡監査役から会計監査経過の報告があり全て承認されました。また今年度は役員改選の時期にあたりましたが全員留任の提案があり、これも承認されました。

会終了の後、参加の皆様の各種の報告と意見交換が行われ、引き続き懇親会を開催し、賑やかに懇談いただきました。

<お知らせ1>

次回、第47回 セミナーは、2011年3月18日金曜 14:00～17:00

下記のような予定内容で開催されます。

- ・「国内外の基準・規制 トピックス / 繊維製品に関わる有害物質を中心に」
財団法人 日本化学繊維検査協会 工藤公治
.....講演後、ご出席の皆様参加のフリーディスカッション.....
- ・「繊維製品におけるサプライチェーン・トレーサビリティ」

事務局長 近藤繁樹

懇親会

17:00 ~

<お知らせ1>

恒例になりました、国際セミナーを本年度も開催いたします。

- ・ 第9回国際セミナー 江戸博 2010年5月24日火曜 13:30~

正式なご案内は3月20日前後に差し上げる予定です。

是非、皆様のスケジュールに入れていただければと思います。

編集後記

この52号は定例理事会・総会後にと考えておりましたため、発行が遅くなり申し訳ありません。

現在、事務局では5月の国際セミナーの講演企画、招待講演者へのお願いなどを詰めており、より充実した内容になるように奔走しておりますのでご期待ください。

HK